

平成26年度第1回 埼玉県立歴史と民俗の博物館協議会会議録

- 1 日 時** 平成26年7月18日（金）
午後1時30分開会 午後4時終了
- 2 場 所** 埼玉県立歴史と民俗の博物館会議室
- 3 出席委員** 青木会長、浅井副会長、関口委員、藤村委員、益子委員、植田委員
岩崎委員、田中委員、一ノ瀬委員、佐藤委員、鈴木委員、高原委員
羽生委員、水澤委員
- 4 事務局** 牧館長、杉山副館長、藤野教育主幹、川上主席学芸主幹、田中主席学芸
主幹、鈴木さきたま史跡の博物館主席学芸主幹、木村嵐山史跡の博物館
副館長、中村自然の博物館副館長、関生涯学習文化財課副課長

5 会 議

(1) 会長、副会長の選出

委員の互選により、会長に青木委員、副会長に浅井委員を選出した。

(2) 会議録署名委員指名

会長が関口委員、藤村委員を指名した。

(3) 報 告

ア 平成25年度事業報告について

事務局 （平成25年度の主要事業について報告）

委 員 非常に多彩な事業を展開していることが分かった。社会教育、生涯学
習的な取組を行っていることを、もう少し事業のタイトルとして打ち出して
みてはどうか。

事務局 現在は「学習支援事業」として一括しているが、次年度以降、学校関
係や社会教育関係など、内容を分けた形で表現できるよう検討したい。

委 員 以前から博物館の活動は承知しているが、ますます多彩になっている
と感じた。学芸員の顔が見えるという取組は、来館者、学芸員双方にとって
良いことだと思う。

事務局 昨年度から「学芸員の顔が見える化」に取り組み、様々な形で学芸員
が積極的に表に出て行くようにしている。当館ホームページでは、各学芸員
の専門分野、抱負等を掲載するとともに、「スタッフブログ」も更新している。
このような取組から博物館に親しみを持っていただきたいと考えている。

イ 平成26年度事業について

事務局 （平成26年度の事業運営の基本方針、主要事業計画について説明）

委員 出前授業の増加は、学校における体験学習の充実につながり、大変良いことだと思う。今後、更に希望校が増えた場合でも対応できるのか。

事務局 出前授業は平成24年度に試験的に行き、翌25年度から本格実施した。内容は土器に触れる考古学的なもの、昔の衣装を着てみる歴史的なもの、昔の道具を使う民俗的なものがある。仮に、現在の倍の件数を行うとなると、難しい場面もあると思う。なお、この事業の最終目的は、出前授業を契機に博物館に足を運んでもらうことであり、そのような勧誘も行っている。

委員 学習支援事業のうち「キッズクルー」は、若い人に博物館に来てもらうための布石であると思う。具体的にはどのような活動なのか。

事務局 体験メニューの参加児童にスタンプ帳を配布、内容に応じて押印し、一定の数になると景品を渡すものである。景品を渡す際にもクジ引きを行うなど、子供心をくすぐる工夫をしている。大変好評で会員数は200名近い。会員は年度毎に更新となるが、非常に高い割合でリピートしている。

委員 出前授業をフォローする意味合いもあるのか。

事務局 そのような視点には思い至らなかった。今後、出前授業の際にスタンプ帳を配布することも考えられると思う。

ウ 博物館評価について

事務局 （博物館評価の概要、各博物館の「評価シート」について説明）

委員 さきたま史跡の博物館について、毎年5月4日に行われる「さきたま火祭り」の日の入館者数はどのくらいか。

事務局 通常、土・日・祝日の入館者は千人程度だが、祭り当日は3千人に及ぶ。ただ、駐車台数の制約もある。

委員 周辺の民間駐車場も充実しているようで、良いと思う。

委員 本日、この会場にタクシーで来たが、運転手は博物館の存在を知らなかった。アピール不足ではないかと感じた。

委員 評価シートに「対マスコミ情報発信件数」という指標があるが、ここにおける「マスコミ」の定義は何か。

事務局 ここに掲げたのは、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌及びインターネット上の広報サイトにおける情報発信件数を集計した数値である。

委員 インターネット以外の「マスコミ」は、県内の機関と考えてよいか。

事務局 広報テーマによって異なるが、記者発表は県政記者クラブ又は市政記者クラブで行っている。ただし、県外の機関からの求めに応じて情報提供する場合もあり、その件数も含まれている。

委員 新聞購読者は高齢化しており、若くて40歳台、その下の世代はほとんど読まなくなっている。旧来の意味でのマスコミだけでなく、更に広い意味で「広報」を考える方が効果的であると思う。

委員 広報媒体については、マスコミという概念ではなく、メディアとして広く捉えた方が良くもしいない。マスコミの情報発信はマスコミ自身の選択権に基づいて行われる。博物館自前の発信手段として、フェイスブック等を活用すべき段階に来ている。

委員 マスコミの取り上げ方は記者の興味に左右される。これまでの枠に囚われない形で事業を企画し、発信していけば、必ず効果は出てくると思う。

委員 評価シートの項目に「経営努力」とあるが、民間企業でも経営目標に届かず、多くは下方修正している状況である。もちろん努力は必要だが、目標を達成できなければ駄目、とは考えない方がよい。博物館は株式会社ではないのだから、全て数字に還元することはできない。合理化にも一定の限界があるはずだし、研究機関として必要なこともあると思う。

委員 公と民にはそれぞれの役割がある。コスト削減ばかりでモラルを落としてはいけない。お金、数字でのみ評価することは、教育という営みの中では控えた方がよい。確かに、入館者数を増やすことが第一義とはなるが、長い時間をかけて若い世代に働きかけていく努力こそが重要である。これだけの事業を展開しているならば、数値目標ばかりを追わない方が、県民のためには良いのではないかと思った。

会長 博物館評価については、細部を集中的に検討する必要があることから、協議会内に小委員会を設置している。当該小委員会の委員を3名選出したい。事務局案はあるか。

事務局 一ノ瀬委員、鎌倉委員、水澤委員にお願いしたいと考えている。

会長 異議がないようなので、博物館評価小委員会の委員を一ノ瀬委員、鎌倉委員、水澤委員にお願いする。

(4) 次回委員会の日程

平成27年3月(予定)

上記内容について確認する。

署名委員 _____ ㊟

署名委員 _____ ㊟